



医療機関名：PMCクリニック
受診日：2023/4/1
受診者名：サンプル タロウ
カルテID：123456789
備考欄①：
備考欄②：

すい臓がんリスク検査報告書

Prodrome-PAC

プロドロームピーエーシー

Prodrome-PACは、米国で行われた疫学研究に基づき、あなたの検査結果と類似した検査母集団(群)における、統計的なすい臓がんの発症リスクを指標化したものです。

*本検査は疾患の診断や将来の疾患発症を確定するものではありません。

*基礎疾患やその他遺伝的要因等によってもすい臓がんの発症リスクは変動いたします。

氏名	サンプル タロウ 様	性別	男性	年齢	47歳
受診日	2023/4/1	カルテID	123456789		

今回のProdrome-PACの結果

Prodrome-PACの結果、長鎖脂肪酸の値は、レベル**82**であ
なたの結果値と同等の方は**低リスク群**に分類されます。

結果コメント

今回の検査結果では長鎖脂肪酸の値から低リスク群に分類されました。

すい臓がんは症状に気づきにくいがんともいわれています。今後も定期的に検査を受検し、すい臓がんの
早期発見・予防に努めましょう。また、食生活、喫煙、飲酒などの生活習慣の乱れにも注意しましょう。

(各)リスクの分類について

低リスク群

レベル:26-100

リスク因子を避けて、健康的な生活習慣を心がけましょう。
また、リスク管理のためがん検診や本検査の継続的な受検をおすすめします。
*「低リスク」群であっても疾患の発症可能性が否定されるものではありません。

中リスク群

レベル:11-25

喫煙習慣や肥満といったリスク因子をお持ちの方は、生活習慣を見直し、健康的な
生活習慣を心がけましょう。
また、リスク管理のためがん検診や本検査の定期的な受検をおすすめします。
※1年に1度程度

高リスク群

レベル:0-10

医療機関ともご相談の上、専門医の受診をご検討ください。
必要に応じて、すい臓の精密検査(右ページ参照)の実施も推奨します。

すい臓がんのリスク因子について

すい臓がん発症の危険性を増加させるリスク因子がいくつか報告されています。
予防の第一歩として生活習慣の改善を心がけましょう。

✓糖尿病



すい臓がん患者の25%以上で糖尿病の既往歴があったことが報告されています。
そのため、糖尿病はすい臓がんのリスク因子の1つと考えられています。

✓喫煙



喫煙はすい臓がんの発症危険度を2～3倍に増加させることが報告されています。
また、動脈硬化やその他のがんのリスク因子としても考えられています。

✓アルコール



アルコールを1日3杯以上摂取する方*は、すい臓がんのリスクが高かったことが報告されています。

*日本酒1.7合相当
1杯=エタノール12.5g

✓肥満



肥満はすい臓がんのリスクを増加させることが報告されています。
BMI（肥満指数）が25以上の方では、それ以下の人に比べてすい臓がんを発症するリスクが2倍ほど高まるといわれています。

参考：国立がん研究センター がん情報サービス
科学的に基づく発がん性・がん予防硬化の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究

すい臓がんに関する精密検査について

すい臓がんは自覚症状が少ないことで知られています。
必要に応じて専門外来の受診や精密検査の実施をおすすめします。（下記は実施例です。）

✓超音波内視鏡



超音波装置を先端につけた内視鏡を用いて行う検査です。体表面からの腹部超音波検査とは違い、対象となる部位に近い位置で検査を行うことが可能です。

✓CT検査



X線コンピュータを使用し、すい臓の画像を撮影する検査です。病変の大きさや位置、広がりを精密に観察できます。

✓MRI (MRCP)



強力な磁気を用いて、断層写真を撮影する検査です。MRCP（MR胆管膵管撮影）では、すい臓の中心を通る「膵管」や、胆汁を運ぶ「胆管」を中心に検査することが可能です。

※Prodrome-PACは医師の診断を代替する検査ではありません。

※すい臓がんの診断は、その他の健康診断の検査結果や精密検査の結果をもとに総合的に判断されるものです。

● Prodrome-PACについて ●

検査概要

本検査では6種類の長鎖脂肪酸*¹（以下PCファミリーと記載）の血中濃度を測定しています。これらは健康な状態からすい臓がん にいたる段階で減少すると考えられています。

人体では、慢性的に過剰な炎症が生じたり、古くなった細胞が蓄積することでがんができやすくなると考えられていますが、PCファミリーはこれらを抑制することでがんの発生を防ぐ働きがあると考えられています。そのため、PCファミリーの減少は、すい臓がんの発症リスクを高める可能性があると考えられています。

*¹ 長鎖脂肪酸：細胞を構成する物質で、その機能や形状を正しく保つ働きがあります。

結果について

PCファミリーの測定量によって高リスク群、中リスク群、低リスク群の3段階に分類しています。

統計的に中リスク群の場合は、低リスク群の方に比べてがんが見つかる可能性が20倍近く高くなるとされています。同様に、高リスク群の場合は、低リスク群の方に比べて100倍以上がんが見つかる可能性が高くなります。*²

※² 55-59歳男性の場合のがんの発見率：中リスク群/低リスク群=22倍、高リスク群/低リスク群=166倍

受検後の対応

生活習慣を見直してリスクの軽減に努めるとともに、定期的なご受検をおすすめします。また、必要に応じて、精密検査を受けることをおすすめします。

